

1. 枚方市駅周辺の現況整理

枚方市駅周辺の課題

- ①平地に限られ、まちの広がりに制約がある
- ②他都市に比べ、若年層が流出傾向にある
- ③魅力的な特徴が乏しく平均的なまち
- ④駅利用者等の往来がまちの賑わいにつながっていない

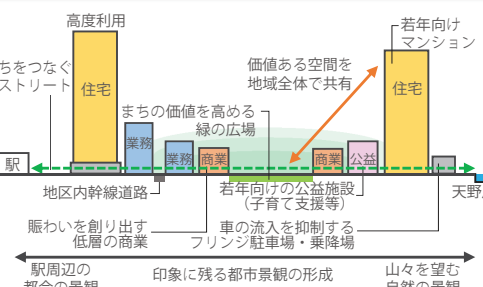
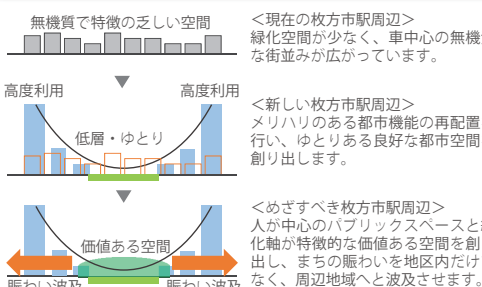
まちづくりの方向性

- ▶ 高度な土地利用により、メリハリのある都市機能の配置
- ▶ 若年層のニーズに対応した、住みやすい生活環境の整備
- ▶ 都市と自然を併せ持つ、印象に残る都市景観の形成
- ▶ 交通結節点の機能強化と公共交通の利用促進

2. 提案コンセプト

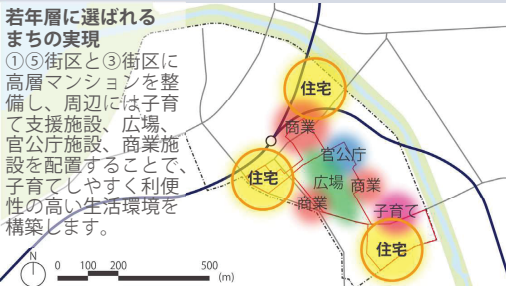
＜提案コンセプト＞
HIRAKATA VALUE
 ～枚方でしかつくりえない、次世代に向けたまちづくり～

限られた土地を有効活用し、次の世代に向けた良好な都市空間を形成します。周辺住民が日常生活の中で価値ある空間を共有し、上質で豊かな暮らしを育むためのエリアマネジメントを展開することにより、「住みたいまち、選ばれるまち枚方」を実現します。



3. 景観・空間づくりなどのまちづくりの考え方

子育てしやすく暮らしやすい都市機能の構築



人々が集まりまちの中心となる緑の広場

まちの価値を向上する空間
 ④街区の中心に緑あふれる広場空間を整備します。歩行者専用道路や緑のストリートを通じて周辺施設とつながり、回遊性を生み出す役割を果たします。

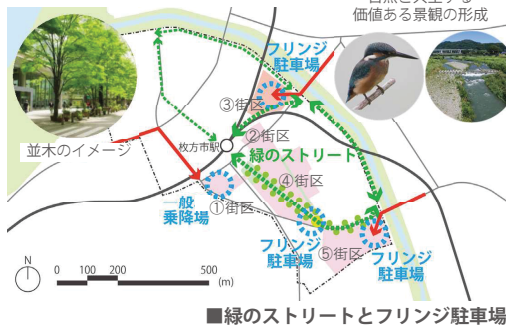
交通環境改善に向けたフリンジ駐車場・乗降場

歩行者中心のまちなか空間の形成
 ④⑤街区と③街区にフリンジ駐車場、①街区に一般乗降場を整備し、地区内への自動車流入を抑制することで、安心安全な歩行者空間をつくります。

新たに導入する機能のイメージ

都市と自然をつなぐ緑のストリート

緑あふれる魅力的なまちなみの形成
 駅から④⑤街区と③街区を通して、天野川までを結ぶ緑のストリートを整備します。緑のストリートは、木かけをつくる並木道を整備し、枚方らしさを取り入れた自然と共生する価値ある景観を形成します。

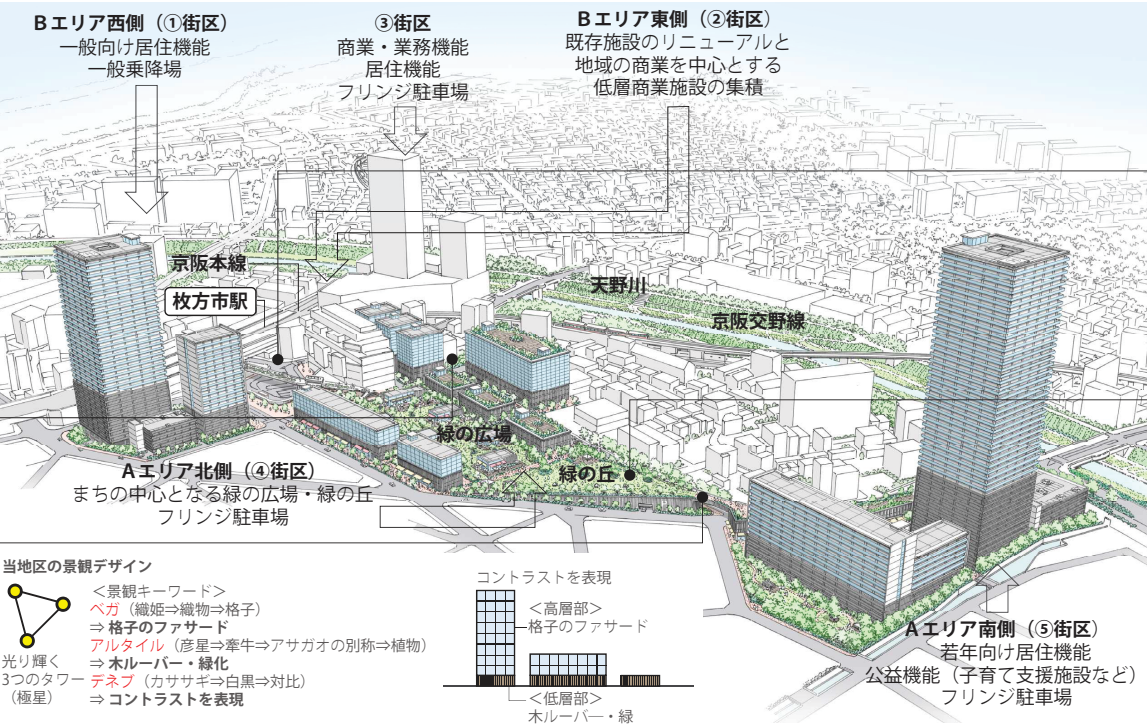
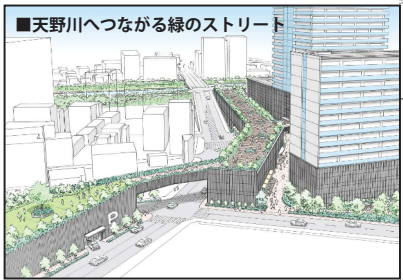
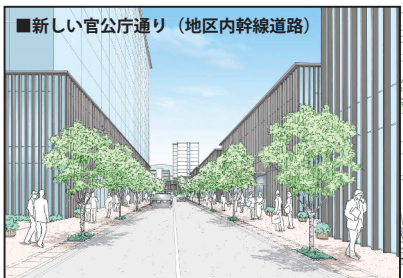


交通環境再整備+価値ある空間創出=経済効果

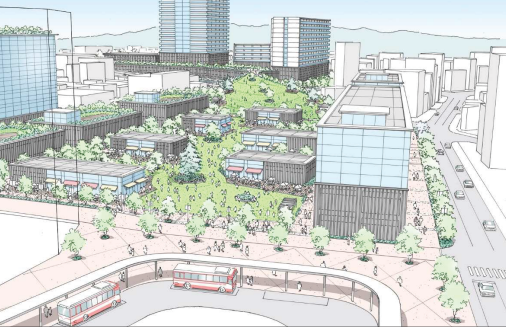
歩きたくなるまちづくりによる経済効果
 フリンジ駐車場、地区内幹線道路、駅前広場などの交通環境の再整備と、緑の広場・緑の丘や緑のストリートなどの価値ある空間を創出することで、歩きたくなるまちを形成し、駅からの人の流れをつくり、経済効果につなげます。

まちの完成イメージ (主な導入機能)

まちの中心(緑の広場・緑の丘)をつくり、この場所ではしか体験できない、自然と都会の景観を感じられる緑のストリートをつくり、まち全体がつながることで、地域全体で価値ある空間を共有します。



山々を望む自然の景観 (駅から④街区方向を望む)



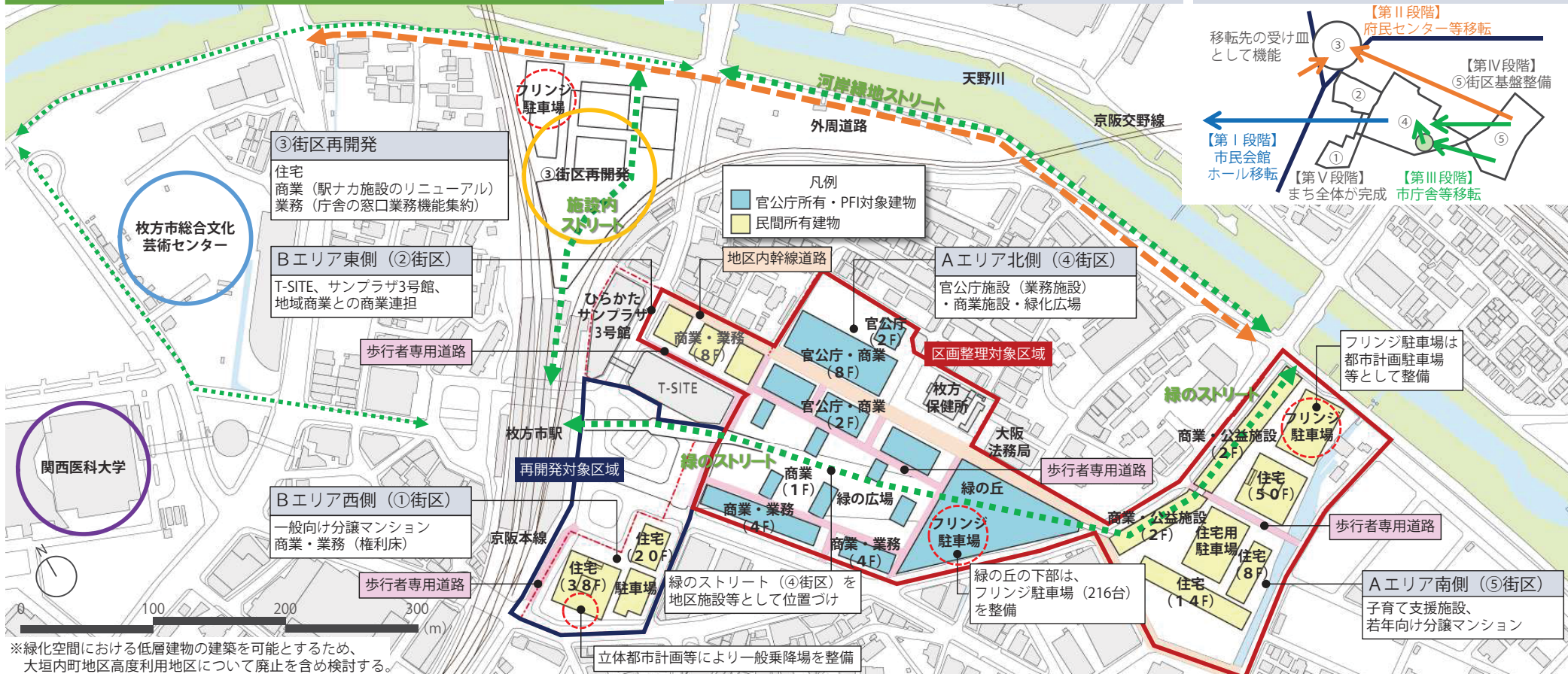
駅周辺の都会の景観 (④街区から駅方向を望む)



4. 土地利用計画・施設計画や都市計画の提案

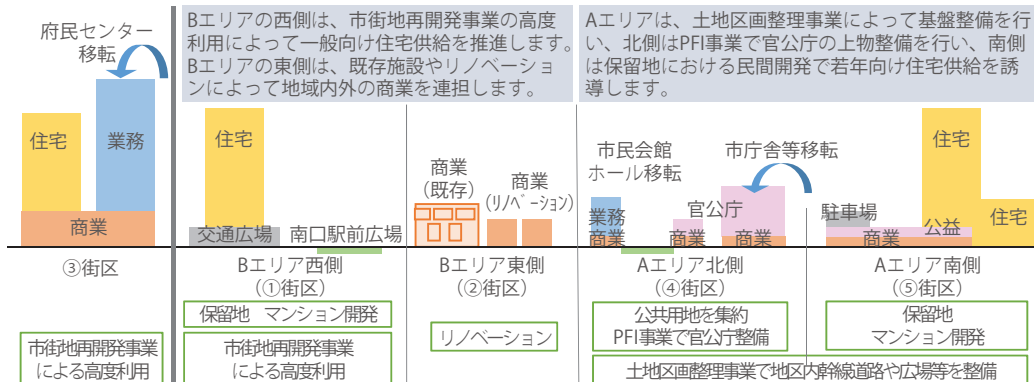
駅南口に隣接するBエリア、Aエリアの南側は高度利用を図り、民間開発による住宅供給を誘導します。Aエリア北側は、ゆとりのある緑化空間に官公庁施設を集約します。緑の広場、緑の丘を中心に、商業施設で囲う形で、人が主役の賑わいのある空間を創出します。

広場に面して、商業施設の正面が配置できるように、歩行者専用道路で施設の敷地を区切ります。まちの外周部にフリンジ駐車場及び一般乗降場を配置します。

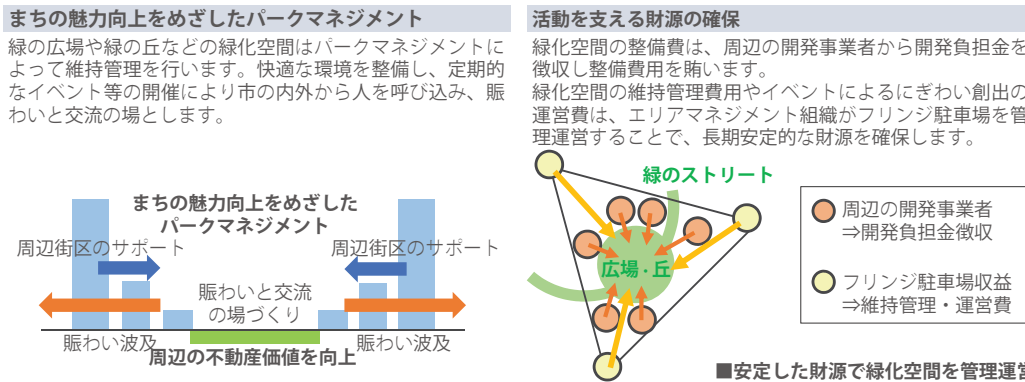


※緑化空間における低層建物の建築を可能とするため、大垣内町地区高度利用地区について廃止を含め検討する。

5. 実現性・効果の早期発現を踏まえた最適事業手法及びコスト縮減や平準化策

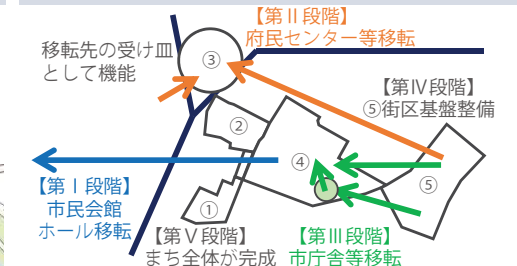


6. エリアマネジメント（維持管理、整備後の継続した賑わい等）の導入の考え方



7. その他、再整備に向けて必要と考えられること

③街区と一体となった連鎖型の段階施行により公益施設を原則1回移転で整備し市街地の更新を図ります。



本提案書は、枚方市駅周辺再整備連携会議において京阪ホールディングス株式会社から提出された資料です。提案内容やパースなどは(案)であり、決定したものではありません。